

株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに、第72期の中間事業報告をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当社は本年5月に新中期経営計画『Fuji Dynamic Revolution-1』(略称FDR-1)を策定し、スバルの存在価値を追及した総合ブランド戦略を推進するとともに、事業持株会社型組織への改革を行い、責任体制の明確化と経営のスピードアップ化を図ってまいりました。

当中間期の連結決算の業績につきましては、前年同期に比べ減収減益となり、単独決算につきましても減収減益となりました。当中間期は『FDR-1』に基づく、長期的視野に立った計画的な先行開発投資を行ったこともありこの様な結果となりましたが、期初の単独決算の利益予想に対し、経常利益および当期利益ともに計画を上回ることができました。

以上の状況を踏まえ、当中間配当につきましては、引き続き1株につき4円50銭と決定させていただきました。

今後につきましても、引き続き新中期経営計画『FDR-1』の達成に向け、全力で取り組んで行く所存です。そのなかで自動車事業は、『お客様に感動を与える価値ある商品』の提供を原点としつつ、市場におけるスバルの存在感を高めるために、製造から販売・サービスまでのすべての領域において『プレミアムブランド』となるための総合ブランド戦略を最重点課題としてまいります。そして、『人の心に響く技術』の提供や『世界に誇れる高収益な企業体質』などの確立に取り組んでまいります。

また自動車以外の事業においても、限られた資源の有効活用とスピード経営を推進し、各カンパニーにおける自立的成長を目指してまいります。

さらに環境面においても、地球環境保全と社会貢献活動を重視し、低燃費・低排出ガス車への対応や新型車のリサイクル性向上に注力するとともに、廃棄物の発生量の抑制、省エネルギー活動など環境負荷を軽減するさまざまな活動に全社をあげて取り組んでまいります。

加えて、昨今の一部企業における不祥事を厳粛に捉え、コンプライアンス(法令遵守)活動についても注力してまいります。そして、これらの活動を通し『存在感と魅力ある企業』の実現を目指してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年12月



代表取締役社長

代表取締役会長

竹中恭二

田中毅

営業の概況及び業績の推移

[営業の概況]

当中間期の連結決算の売上高は、自動車販売において海外では堅調に推移しましたが、国内が減少し、6,484億円と前年同期に比べ114億円(1.7%)の減収となりました。利益面につきましては、FDR-1に基づく、長期的視野に立った計画的な先行開発投資の実施などにより、営業利益は369億円と前年同期に比べ68億円(15.7%)の減益となりました。また経常利益は312億円と前年同期に比べ62億円(16.6%)減少しましたが、当期純利益につきましては、バスおよび車両事業の撤退に伴う損失を計上したものの、投資有価証券評価損の減少等があり、167億円と前年同期に比べ7億円(5.0%)の増益となりました。

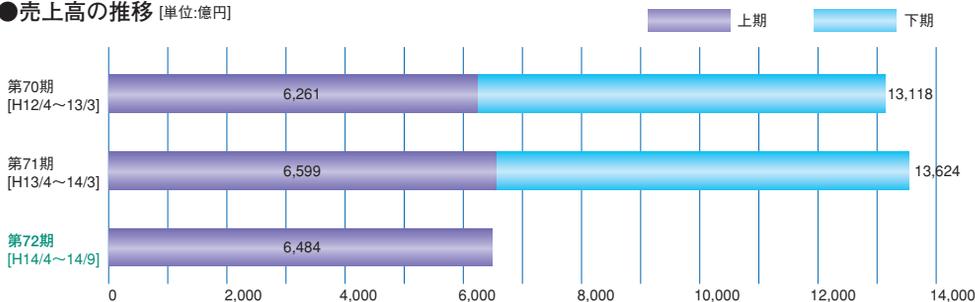
単独決算の売上高は、海外向け輸出台数の増加や為替レート差が寄与したものの、国内における

自動車販売の減少やボーイング社向け製品の機数減少もあり、4,440億円と前年同期に比べ90億円(2.0%)の減収となりました。利益面につきましては、各種費用の低減や為替レート差等の増収要因がありました。各種費用の低減や為替レート差等の増収要因がありましたが、車種構成差による減収要因や先行開発投資の実施もあり、営業利益は246億円と前年同期に比べ66億円(21.3%)の減益となりました。また経常利益につきましても、230億円と前年同期に比べ77億円(25.1%)の減益となりました。当期利益につきましては、バスおよび車両事業の撤退に伴う損失の計上等により、102億円と前年同期に比べ26億円(20.7%)の減益となりました。

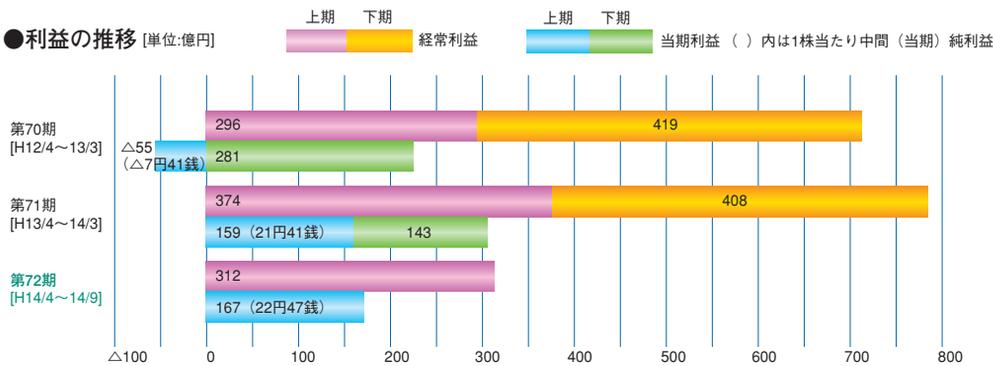
以上のとおりの業績となりましたが、期初に計画した単独決算の利益予想に対し、経常利益30億円、当期利益7億円上回ることでできました。

[連結の業績及び推移]

●売上高の推移 [単位:億円]



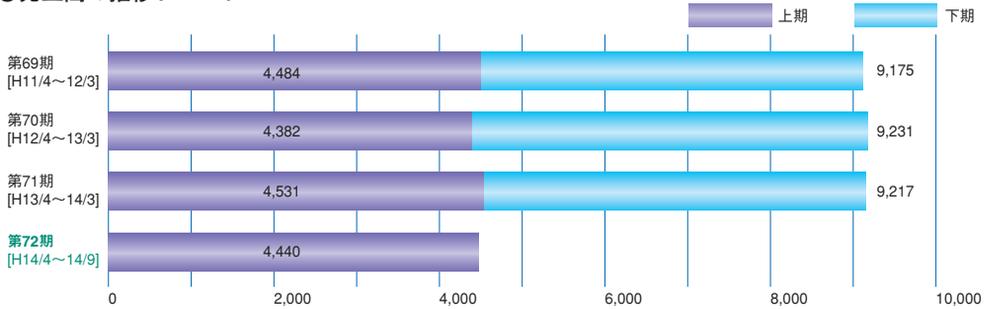
●利益の推移 [単位:億円]



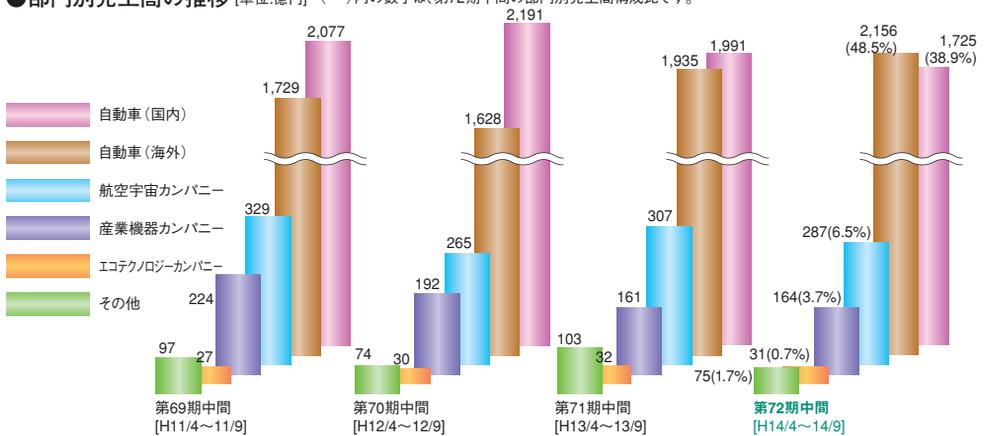
[注]億円未満切り捨て

【単独の業績及び推移】

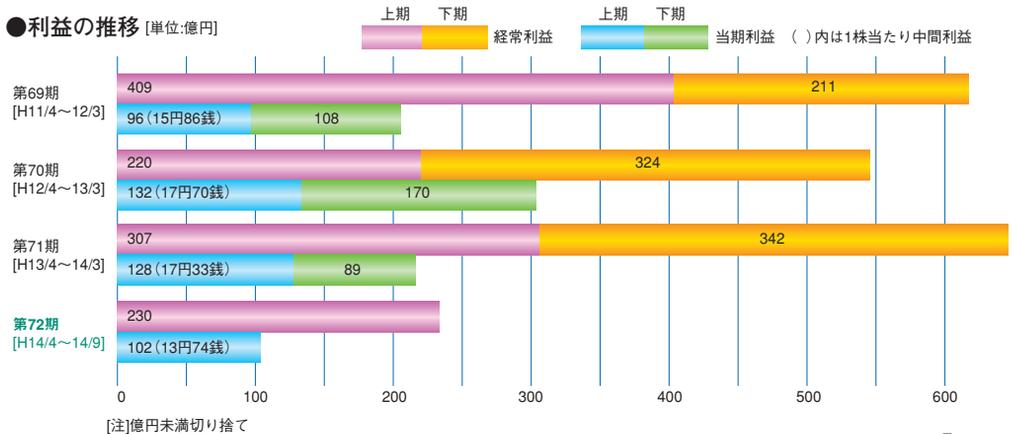
●売上高の推移 [単位:億円]



●部門別売上高の推移 [単位:億円] ()内の数字は、第72期中間の部門別売上高構成比です。



●利益の推移 [単位:億円]



[スバル・オートモーティブビジネス] 全体の売上が減少となるも、 海外の売上台数は増加

国内の自動車市場につきましては、経済環境の低迷を反映し、買い替え需要に支えられた大衆クラスや軽自動車の乗用車を中心に販売を伸ばしたものの、商用貨物車は前年同期を大きく下回りました。この結果、全体需要は前年同期をやや下回る278万台(前年同期比1.0%減)と、依然として低水準の厳しい販売環境で推移しました。

全体需要の中心が大衆クラスに移行するなかで、スバルの登録車につきましては、逆風環境となりましたが、2月にフルモデルチェンジした新型フォレスターが大きく販売を伸ばし、前年同期を33.9%上回りました。また主力車種のレガシイにつきましては、特別仕様車の発売や販売施策の強化などで底支えを行い、登録車全体では50千台(前年同期比5.4%減)の販売台数を確保することが出来ました。

軽自動車につきましては、他社の新型車攻勢や貨物車の需要低迷など、厳しい状況のなかで、73千台(前年同期比14.3%減)となりました。なお、9月にデザインを一新し質感を高めたサンバーや10月には商品力を強化したプレオを発売し、年度後半に巻き返しを図る計画です。

以上の結果、国内登録届出台数は123千台(前年同期比10.9%減)となり、売上(出荷)台数につきましても121千台(前年同期比12.5%減)となりました。

海外につきましては、北米市場において、上期に発売した新型フォレスターが大きく寄与するとともに、米国で生産開始した新しいタイプのクロスオーバーヴェイクルBaja(バハ)も加わり、引き続き販売が好調に推移しました。これにより、北米向け完成車は60千台(前年同期比10.5%増)、CKD(海外生産用部品)についても52千台(前年同期比4.2%増)となり、海外向け販売台数の牽引役を果たしました。なお、新型フォレスターにつきましては、米国の道路安全保険協会の衝突試験評価において、小型SUVクラスで最高の評価である『good(良い)』を獲得するとともに、そのなかでもさらに評価が高く推奨される『best pick(最良の選択)』に選ばれました。

また、欧州においても新型フォレスターが好評で17千台(前年同期比16.3%増)となり、豪州では、5月に

現地特約店がメルボルンに開設した直営大型ディーラーが効果を上げ始め、14千台(前年同期比9.2%増)となりました。

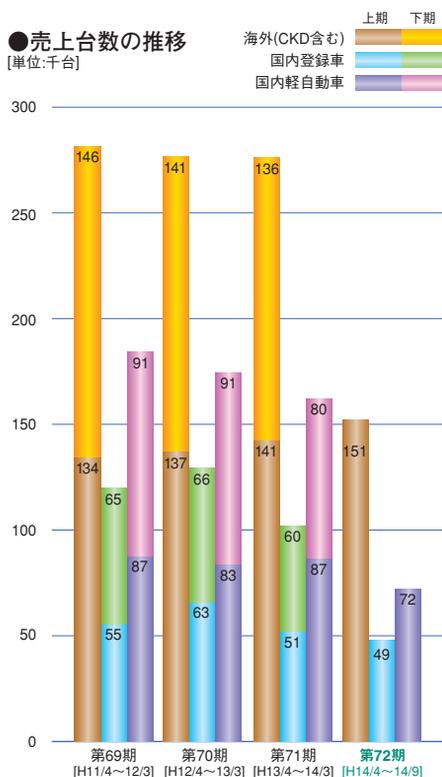
これらの結果、完成車輸出台数はレガシイ、インプレッサが前年同期を下回りましたが、新型フォレスターが健闘し、98千台(前年同期比10.9%増)となりました。

また、CKDにつきましても台湾現地生産からの撤退を北米の増産でカバーし、53千台(前年同期比0.5%増)となり、完成車およびCKDの合計は151千台(前年同期比7.0%増)となりました。

以上の状況から、国内、海外を合わせた売上(出荷)台数は271千台(前年同期比2.7%減)となり、自動車部門全体の売上高は3,881億円(前年同期比1.1%減)となりました

● 売上台数の推移

[単位:千台]





PHOTO：フォレスター クロススポーツ

NEW MODEL

市場のニーズに応える、ローダウンモデル フォレスター クロススポーツ

発売以来、高い評価を得ている新フォレスターに「クロススポーツ」が追加発売されました。ローダウン化や足回りの強化等によってオンロードの走行性能を向上。かつ170mmの最低地上高での走破性確保や、立体駐車場に対応するよう全高を1550mmにおさえるなど機能と扱いやすさとの両立を図るとともに、専用のエクステリアがスポーティなスタイルに磨きをかけました。高性能オーディオや専用シート素材など装備も充実し、都市型スポーツSUVとしてさらなる商品力の向上をはかります。



PHOTO：
ディアスワゴン スーパーチャージャー

NEW MODEL

デザインを一新。人気の実用モデル 新サンバーシリーズ

使い勝手の良さや、優れた走行性能で好評をいただいているサンバーシリーズが新しくなりました。フルキャブレイアウトがもたらす広い室内や、4輪独立サスペンション・4気筒エンジンなど快適な走りを実現するメカニズムに加え、一段と精悍さを増したエクステリアに一新。貨物系全車グリーン税制に対応するなど環境性能も向上し、プライベートからビジネスまで幅広いニーズに応えます。

部門別営業報告

[航空宇宙カンパニー]

同時多発テロの影響で売上高減少

航空宇宙カンパニーにつきましては、防衛庁向け製品がターゲットドローンの機数増加や新初等練習機の納入開始等により前年同期を上回りました。一方、民需は高速飛行実証機の納入による宇宙分野の売上増加がありましたが、ボーイング社向け製品が米国同時多発テロに起因する航空旅客減少の影響を受け、全体の売上高は287億円(前年同期比6.5%減)となりました。



航空自衛隊に納入した「新初等練習機」。初級操縦課程での飛行教育訓練に使用される。

[産業機器カンパニー]

海外CKDが売上に寄与

産業機器カンパニーにつきましては、国内は長引く景気低迷により、小型土木建設機械用エンジン等が減少しました。しかし、海外では米国向けレジャービークル用エンジンのCKD(海外生産用部品)およびアジア向けエンジンが増加したことにより、全体の売上高は164億円(前年同期比1.9%増)となりました。



高出力で低燃費な空冷4サイクル傾斜形単気筒OHC式ガソリンエンジン「EX27」。

[エコテクノロジーカンパニー]

堅調な環境製品があるも、売上高減少

エコテクノロジーカンパニーにつきましては、塵芥収集車フジマイティとプラント関連が堅調に推移しましたが、ゴミ処理機器等が減少し、売上高は31億円(前年同期比3.5%減)となりました。



国内トップシェアを誇る塵芥収集車フジマイティ。

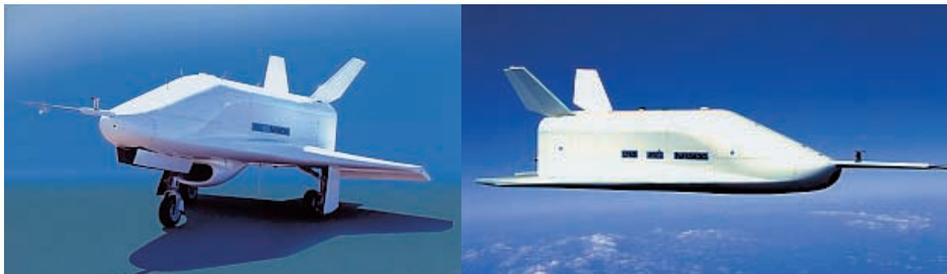
[その他]

各事業部の売上高が減少

バス事業につきましては、観光バスのバス車体が減少し、売上高は37億円(前年同期比28.1%減)となりました。ハウス事業につきましては、公共工事の減少と民間建設投資抑制の影響を強く受け、売上高は11億円(前年同期比8.9%減)となりました。車両事業につきましては、智頭急行向け振り子式特急気動車の納入がありました。売上高は26億円(前年同期比31.9%減)となりました。



7月1日に開業した「ごめん、なはり線」4.27kmを走る土佐くろお鉄道向けイベント車。



高速飛行実証機「HSFD (High Speed Flight Demonstrator)」

再使用型宇宙輸送システムの開発に向けた実証機「高速飛行実証機」2機が完成

航空宇宙カンパニーは、独立行政法人航空宇宙技術研究所 (NAL) 及び宇宙開発事業団 (NASDA) から受注していた高速飛行実証機 (HSFD) 2機を完成させ、ロールアウトいたしました。この実証機は再使用型宇宙輸送システムの研究開発の一環として当社が

主契約者として受注していたものであり、すでに NAL/NASDA によって宇宙輸送システムが宇宙から帰還する際の最終フェーズにおける技術を検証するための各種試験が開始されています。



離島用風力発電システム

離島用風力発電システムが 沖縄県伊是名島で竣工

本年4月に、NEDO (新エネルギー・産業技術総合開発機構) より、開発委託された離島用風力発電システムを沖縄県伊是名島に建設し実証試験を開始しました。塵芥収集車、リサイクルプラント等の環境製品に風力発電システムを加え地球環境保全に取組んでいます。



「SUITランスベース」入口

滋賀に大規模中古車展示場 SUITランスベースがオープン

本年9月7日、滋賀県甲西町にスバルの大規模な中古車展示場「SUITランスベース」がオープンしました。施設の一部にエコテクノロジーカンパニーやバス/ハウス事業部の技術を取り入れるなど、自動車部門だけでなく当社全体の事業の活性化も目指しています。

NECとの共同出資による 自動車用電池開発会社設立

本年5月、ハイブリッド自動車用電池を開発するため NEC (日本電気 (株)) と共同で「NEC ラミオンエナジー (株)」を設立しました。現在のハイブリッド車用電池よりも大幅に小型・高性能・安価な新電池を開発し、スバルだけでなく、国内外の自動車メーカーに幅広く提供することを目指しています。

【NEC ラミオンエナジー (株) の概要】

- 社名: NEC ラミオンエナジー株式会社
- 事業目的: 自動車用マンガン系リチウムイオン組電池の企画・開発
- 本店所在地: 神奈川県川崎市宮前区 (NEC ラボラトリーズ内)
- 代表者: 内海 和明 (現 NEC 研究企画部エグゼクティブエキスパート)
- 資本金: 4.9 億円 (出資比率: NEC 51%、富士工業 49%)
- 設立: 2002 年 5 月 20 日
- 従業員数: 21 人
- 開発拠点: 神奈川県川崎市 (NEC ラボラトリーズ内)、東京都三鷹市 (富士工業技術研究所内)

プレミアムブランドを目指して スバルのデザイン力を強化

当社の中核であるスバル・オートモーティブビジネスでは、ブランドイメージの飛躍的な向上を目指し、革新的で存在感のあるスバルデザインを創造するために、デザイン部門を執行役員が統

括するとともに、そのデザイン力をより強化していくこととなりました。ここでは、そのデザイン力を中心としたスバルのブランド戦略について、説明します。

スバルブランド向上のためのデザイン強化

- デザイン部門に執行役員のポストを設置し、杉本 清がその任に就く。
- アドバンス・デザイン部門のチーフデザイナーにアンドレアス・ザパティナス氏を迎える。
- 外国人若手デザイナーを3名起用する。
- ブランドイメージビルディングを外部コンサルティング会社と共同して進めていく。

アンドレアス・ザパティナス氏紹介

1957年ギリシア アテネ生まれ。アメリカのアートセンター・カレッジ・オブ・デザインでカーデザインを学ぶ。
ビンファンリーナ、フィアット、BMWのデザイン部門を経て、1998年にアルファロメオのチーフデザイナーに就任。ザパティナス氏がたずさわった「147」は2001年欧州カー・オブ・ザ・イヤー、2001-2002インポート・カー・オブ・ザ・イヤー（日本）を獲得した。今回スバルでは、東京スタジオ（三鷹市・東京事業所内）でアドバンス（先行）デザインのチーフに就任した。



ザパティナス氏の考えるスバルデザイン

スバルは「プレミアムブランドを目指す」という明確なビジョンを持っています。一つの企業にとってその方針がはっきりしていると言うことは、商品デザインする意味でも重要であり、それだけスバルが明るい将来を持っていることを示しています。

プレミアムブランドを目指すと言うことは、その考えがデザインに明確に表現されている必要があります。ですからデザインを決める過程が複雑であれば、最終的に企業の目的が薄まってしまうと思います。料理を例にとると、料理長がたくさんいて、あれこれ口をさはさむと、イタリア料理や中華料

理やフランス料理が混ぜこぜになってしまい、結局なんだかわけのわからない料理になりかねないのと同じです。デザインはアートです。花卉のように非常にデリケートなものなので、少しでもいじったり、手を加えるたびに、壊れていってしまいます。

スバルは、昨日今日に始まったわけではなく、車文化に根付いたブランドを持っています。ですから、これまで築き上げてきた素晴らしい資産を上手く活用すると共に、新しいチャレンジを行い、プレミアムブランドを構築できるように務めていきたいと考えています。

スバルオーストラリア直営 ブランド価値体験型ショッ SUBARU INTERACTIVE @ DOCKLANDS がオープン

このたび、当社出資の海外ディストリビューターであるスバルオーストラリアが、オーストラリア第二の都市メルボルンに直営の大規模販売拠点を開店しました。これは、単なる販売店ではなく、新車、中古車販売からカスタマイズ、ラリー、アク

セサリーといった周辺事業、さらには、地域活動やスポーツ、多種多様な趣味にまで対応する「総合ユーザーサービス」拠点です。ここでは、このメガディーラーを通して、スバルのグローバルなブランド戦略をご紹介します。

SUBARU INTERACTIVE@DOCKLANDS

- 拠点設置環境 オーストラリア第二の都市であり、かつ最も交通網が発達しているメルボルン。その中心地から約2kmの商業・住宅エリアに変貌を遂げつつある港湾再開発エリアに立地。
- 敷地面積 22,000m² (6,600坪)
- 営業内容 新車販売・中古車販売・サービス・部品販売・STIショップ&サービス
ドライビングスクール・ラリーチーム運営・スバルファイナンス
- 住所 99 LORIMER STREET DOCKLANDS , VICTORIA
- 営業開始日 2002年5月18日

この大型拠点をスバルのグローバルなブランド戦略・販売戦略のモデルとして考え、ここで得られたものを世界の販売拠点へと展開し、世界のお客様の期待に応えていきたいと考えています。

スキッドパッド

滑りやすい路面を再現した試乗コース。
ドライビングレッスンも行われている。

ブレアデスカフェ アパレル用品コーナー

新車ショールーム

16～17台の展示スペースをもち、全車種を展示している。

スバルラリーチーム

オーストラリア
競技車両メンテナンスファクトリー

認定中古車展示スペース

116項目の点検を実施した
認定中古車のみを展示。

STIショップ サービスファシリティ

30台分のサービススペースを有する。

ラフロードテストコース

ダートをベースに岩なども配置した
試乗コース。

バーチャルドライビング

シネマ
カットモデル展示スペース
スバルファイナンス



連結損益計算書

単位：百万円

科目	第72期中間	第71期中間
	自平成14年4月1日 至平成14年9月30日	自平成13年4月1日 至平成13年9月30日
経常損益の部		
営業損益の部		
売上高	648,474	659,913
売上原価	467,607	473,611
販売費及び一般管理費	143,921	142,478
営業利益	36,946	43,824
営業外損益の部		
営業外収益	2,131	2,288
受取利息及び配当金	1,075	1,592
その他の営業外収益	1,056	696
営業外費用	7,846	8,645
支払利息	1,569	1,814
持分法による投資損失	19	202
その他の営業外費用	6,258	6,629
経常利益	31,231	37,467
特別損益の部		
特別利益	188	964
固定資産売却益	4	760
その他の特別利益	184	204
特別損失	5,826	8,969
固定資産売却・除却損	2,132	2,182
投資有価証券売却損	981	—
投資有価証券評価損	749	6,071
事業撤退損失	1,882	—
その他の特別損失	82	716
税金等調整前中間(当期)純利益	25,593	29,462
法人税、住民税及び事業税	11,808	19,768
過年度未払法人税等戻入額	△2,973	—
法人税等調整額	134	△5,576
少数株主損失	(加算) 81	(加算) 647
中間(当期)純利益	16,705	15,917

連結キャッシュ・フロー計算書

● キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、1,298億円と前期に比べ38億円減少しました。営業活動による資金の増加は、税金等調整前中間純利益255億円、減価償却費320億円、売上債権の減少額206億円、仕入債務の減少額229億円および法人税等支払額176億円等により536億円となりました。投資活動による資金の減少は、主に固定資産の取得および売却△512億円、有価証券並びに投資

有価証券の取得および売却125億円により、449億円となりました。財務活動による資金の減少は、社債発行による収入100億円、長期借入れによる収入261億円に対し、社債償還による支出200億円、長期借入金の返済243億円および配当金の支払額33億円等から、93億円となりました。なお、現金及び現金同等物に係る為替換算差額は31億円です。

● 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位:百万円

科目	第72期中間	第71期
	自 平成14年4月1日 至 平成14年9月30日	自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	53,623	85,721
投資活動によるキャッシュ・フロー	△44,924	△97,073
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,361	19,772
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,155	4,704
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△3,817	13,124
現金及び現金同等物期首残高	133,708	120,436
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	148
現金及び現金同等物中間期末(期末)残高	129,891	133,708

世界で勝つために生まれ変わった New インプレッサシリーズ新登場

WRC(世界ラリー選手権)での活躍から、その走行性能の高さが国内外で高い評価をいただいているインプレッサを、11月にマイナーチェンジしました。

WRカーのベースモデルであるSTiを中心に、走行性能、デザインの質感共に向上させ、世界中に幅広く展開されているインプレッサのブランドイメージをさらに強化しました。ここではSTiの新しく生まれ変わったポイントをご紹介します。



PHOTO:インプレッサWRC 2003プロトタイプ

New インプレッサWRX STi 改良のポイント

エクステリアデザイン

SWRT(スバル・ワールド・ラリー・チーム)との共同開発によりリニューアルされたボディデザインは、エアロダイナミクス、冷却性能の向上を追及。また、ボンネットとバンパーに衝突時のエネルギーを吸収し歩行者を保護する構造を採用するなど、安全面にも配慮したデザインです。



PHOTO:インプレッサWRX STi

SUBARU 4WD

アクセル開度、タイヤの回転数、車速、横Gなどをセンサーでとらえ、前後のトルク配分を自動的に最適制御するオートモード付のドライバーズコントロールセンサーデフ方式4WD※を新たに導入しました。WRCノウハウを活かしたこの技術で、クルマを自在に操る楽しさをより高めました。

※STi spec C 17インチ仕様車に標準装備、STiにメーカーOP

BOXERエンジン

Newインプレッサではエンジンを細部にわたって革新しました。WRX STiに搭載の2.0ℓツインスクロールターボエンジンは、2.0ℓの市販量産車では世界最強の最大トルク40.2kg・mを実現。WRカーのベースモデルにふさわしい圧倒的なパフォーマンスを発揮します。

足回り

エンジンの改良で強化したトルクとパワーをコントロールするため、足回りの剛性もアップさせました。旋回走行性能を左右する、サスペンション剛性を徹底的に高め、変形が小さく強度が高い専用開発のBBS製鍛造ホイールをオプションで用意。ボディ剛性の強化も相まって、優れたハンドリング性能を実現しました。

単独貸借対照表

単位：百万円

科目	第72期中間	第71期
	平成14年9月30日現在	平成14年3月31日現在
資産の部		
流動資産	372,255	404,157
現金及び預金	23,332	15,460
受取手形	3,199	4,776
売掛金	92,210	127,880
有価証券	92,394	108,058
製品	30,775	34,907
原材料	5,517	4,961
仕掛品	50,682	49,669
貯蔵品	1,683	1,694
前渡金	1,702	597
前払費用	2,471	1,478
繰延税金資産	14,166	11,422
未収入金	14,731	17,889
短期貸付金	36,686	21,680
その他	2,751	3,731
貸倒引当金	△52	△52
固定資産	522,895	520,805
(有形固定資産)	(238,637)	(238,814)
建物	49,810	50,800
構築物	6,408	6,555
機械装置	82,577	79,076
航空機	211	257
車両運搬具	878	943
工具器具備品	9,817	9,843
土地	78,637	78,587
建設仮勘定	10,296	12,749
(無形固定資産)	(13,420)	(13,232)
工業所有権	17	15
ソフトウェア	9,837	9,389
その他	3,566	3,826
(投資その他の資産)	(270,837)	(268,758)
投資有価証券	41,550	43,978
関係会社株式	140,376	135,972
出資金	55	63
関係会社出資金	432	2,092
長期貸付金	49,359	49,965
長期前払費用	2,645	2,573
繰延税金資産	36,274	34,263
その他	8,193	8,379
貸倒引当金	△8,049	△8,530
資産合計	895,151	924,962

POINT
1

POINT
3

POINT
3

POINT
1

科目	第72期中間	第71期
	平成14年9月30日現在	平成14年3月31日現在
負債の部		
流動負債	291,338	300,528
支払手形	5,658	12,807
買掛金	143,153	143,734
短期借入金	25,040	23,040
一年内返済長期借入金	1,410	580
一年内償還社債	10,000	20,000
一年内償還転換社債	20,805	2,033
未払金	11,010	15,689
未払費用	38,743	32,929
未払法人税等	11,119	21,526
前受金	3,010	1,819
預り金	514	536
前受収益	117	125
賞与引当金	11,653	11,753
製品保証引当金	7,254	7,495
設備関係支払手形	1,502	5,504
その他	344	952
固定負債	141,049	166,667
社債	80,000	80,000
転換社債	—	18,777
長期借入金	10,968	12,117
長期未払金	2,984	3,685
預り保証金	1,563	1,658
退職給付引当金	45,327	42,792
役員退職慰勞引当金	205	167
債務保証損失引当金	—	7,467
負債合計	432,387	467,195
資本の部		
資本金	144,452	144,450
資本剰余金	150,764	150,761
資本準備金	150,764	150,761
利益剰余金	166,518	159,754
利益準備金	7,901	7,901
配当準備積立金	6,000	6,000
退職手当積立金	1,000	1,000
別途積立金	78,335	78,335
中間(当期)未処分利益	73,282	66,518
(うち中間(当期)純利益)	(10,221)	(21,846)
その他有価証券評価差額金	3,668	4,993
自己株式	△2,640	△2,192
資本合計	462,763	457,767
負債及び資本合計	895,151	924,962

[注] 百万円未満切り捨て

単独損益計算書

単位:百万円

科目	第72期中間	第71期中間
	自平成14年4月1日 至平成14年9月30日	自平成13年4月1日 至平成13年9月30日
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益		
売上高	444,093	453,144
営業費用	419,461	421,854
売上原価	341,611	344,825
販売費及び一般管理費	77,850	77,029
営業利益	24,631	31,289
営業外損益の部		
営業外収益	3,298	2,925
受取利息及び配当金	1,327	1,415
その他の営業外収益	1,971	1,509
営業外費用	4,901	3,472
支払利息	1,042	958
その他の営業外費用	3,858	2,514
経常利益	23,028	30,742
特別損益の部		
特別利益	8,080	1,825
固定資産売却益	1	918
貸倒引当金戻入額	612	901
債務保証損失引当金戻入額	7,467	—
その他の特別利益	—	4
特別損失	18,426	10,460
固定資産売却・除却損	1,850	1,826
投資有価証券売却損	963	—
投資有価証券評価損	13,730	6,400
債務保証損失引当金繰入額	—	2,233
事業撤退損失	1,882	—
税引前中間(当期)純利益	12,682	22,107
法人税、住民税及び事業税	9,237	15,756
過年度未払法人税等戻入額	△2,973	—
法人税等調整額	△3,803	△6,540
中間(当期)純利益	10,221	12,891
前期繰越利益	63,061	47,821
合併による未処分利益受入額	—	197
中間(当期)未処分利益	73,282	60,911

POINT
1

POINT
1

POINT
2

POINT 1 財務体質の改善

主に国内販売会社の財務体質の改善を図るため、増資による債務保証損失引当金戻入額7,467百万円と当該会社の株式減損処理に伴う投資有価証券評価損13,730百万円を計上しています。

POINT 2 事業撤退損失の計上

バス車体および鉄道車両の新規生産終了(今年度限り)に伴う事業撤退損失1,882百万円を計上しています。

POINT 3 有利子負債

財務体質改善を図るため、有利子負債(社債、借入金等)を削減し、当中間期末の有利子負債は148,223百万円となり、前期末と比べて8,324百万円減少しました。

[貸借対照表および損益計算書に関する注記]

- 有形固定資産減価償却累計額・・・422,747百万円
- 保証債務・・・・・・・・・・・・・・・・・・150,218百万円

[注]百万円未満切り捨て

平成14年9月30日現在

平成14年11月15日開催の取締役会において、当社定款第35条の規定にもとづき、平成14年9月30日最終の株主名簿等に記載された株主に対し、下記のとおり中間配当の実施を決議しました。

1. 中間配当金 1株につき4円50銭
2. 支払請求権の効力発生日
および支払開始日 平成14年12月6日

●株式の総数

発行する株式の総数	1,500,000,000株
発行済株式の総数	746,514,565株
[注]当期中の増加	9,005株
転換社債の転換による新株式の発行	9,005株

●株主数

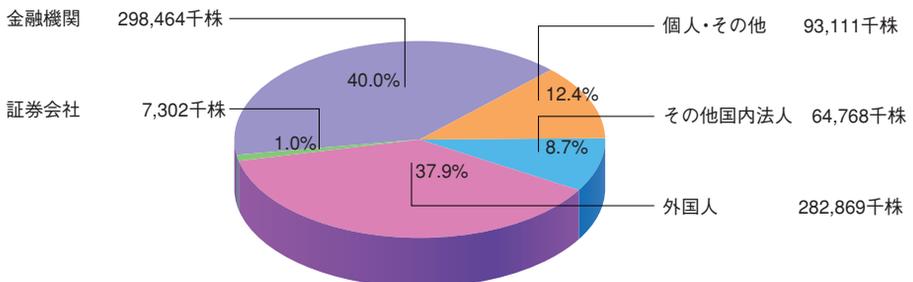
47,196名

●大株主

株主名	株式数(千株)
ゼネラル モーターズ オブ カナダ リミテッド	157,262
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	37,361
株式会社みずほコーポレート銀行	31,736
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	29,978
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	21,349
日本生命保険相互会社	18,633
UFJ信託銀行株式会社信託勘定A口	17,574
スズキ株式会社	13,690
株式会社損害保険ジャパン	11,649
三菱信託銀行株式会社信託口	8,840

●株式の分布状況

合計746,514千株



役員

※取締役会長兼執行役員

※取締役社長兼執行役員

※取締役副社長兼執行役員

取締役兼専務執行役員

取締役兼専務執行役員

取締役兼専務執行役員

取締役兼専務執行役員

取 締 役

常務執行役員

田中 毅

竹中恭二

花田輝夫

鈴木 浩

荒澤紘一

和田英生

五味秀茂

フレデリック エイ・ヘンダーソン

永野正義

街風武雄

土屋孝夫

中坪博之

中原國隆

伊能喜義

桂田 勝

齋藤孝雄

小松 熙

高木俊輔

塚原 穰

和仁喜三郎

及川博之

執行役員

常勤監査役

☆監査役

☆監査役

監査役

平成14年10月1日現在

岩崎雅利

エドワード・バスタナック

石丸雍二

田村 稔

奥原一成

松尾則久

大工原 昇

寺尾俊文

鷺頭正一

石神邦男

工藤一郎

デイビッド・マリック

杉本 清

星 恒憲

森 郁夫

吉橋隆美

野村邦武

高久 宏

古屋 章

[注1] ※印は代表取締役であります。

[注2] ☆印は商法特例法第18条第1項に定める社外監査役であります。

[株主メモ]

決算期日 3月31日
株主確定日
定時株主総会 } 3月31日
利益配当金 }
中間配当金 9月30日
その他の基準日 上記のほか、取締役会の決議により
あらかじめ公告する一定の日

定時株主総会 6月中
名義書換代理人
東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所
東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
[郵便物送付先・電話お問合せ先]
〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 03-3642-4004[大代表]
0570-000324[専用ダイヤル]

同取次所
みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほアセット信託銀行株式会社 本店および全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

[会社の概要]

社名 富士重工業株式会社
英文社名 FUJII HEAVY INDUSTRIES LTD.
創立 昭和28年7月15日
資本金 1,444億5,260万円
従業員数 14,601名
主要製品 小型自動車、軽自動車、航空機、汎用エンジン、
環境車両、バス車体
本社 〒160-8316
東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
電話 03-3347-各部署ダイヤル直通
番号案内 03-3347-2111

表紙の写真は インプレッサ WRX STI



左/プレオ L 右/ネスタG-S

 **富士重工業株式会社**

〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号

電話03-3347-2111

(投資家のみなさまへ) <http://www.fhi.co.jp/fina/index.html>